

とも歩む

②

滝脇 憲

8月下旬の2日間、39回目となる「山谷夏祭り」が行われた。私たち「ふるさと会」の施設で暮らす利用者や演芸活動をしながら山谷に住む人、路上で生活している人たちが毎年、集

まり、無縁仏を供養した後、屋台を出したりバンド演奏を聞いたり、楽しいひとときを過ごす。寄付やボランティアなど多くの人に支え

「夏祭り」みんなの思い

られて運営している。どこの祭りもそうかもしれないが、山谷でも参加者は高齢化している。前回、このコラムで紹介した元と

び職のWさんも80歳代だ。だから、私たちは祭りにどう参加するか、事前のミーティングでよく話し合う。一人では行けない車いすの

う。焼きそばを出すことになったあるグループは、下ごしらえから調理を分担した。認知症のおじいさんも心身に障害がある人も、仕事を失った若者も、私たち職員も、一つの目標に向かって作業する。昔、テキヤだったMさんは、80歳を過ぎてても体が覚えているのか、見事な腕を振るった。

互いの役割を認めている。長年、参加しているバンドの曲が始まると、Wさんはじっと見つめ、震える手でリズムをとった。提灯に照らされた顔に涙がこぼれた。周りの人の笑顔にも涙が光る。来年もみんなでここに集りたい―そんな思いを共有していた。

43歳。NPO法人「自立支援センター」ふるさと会」理事。

* 6人によるリレーコラムです。